令和5年度栗東市公共下水道事業報告書

1. 概 況

(1) 総括事項

本市公共下水道事業は、公衆衛生の向上、生活環境の改善、公共用水域の水質保全のため、市民の暮らしを支える基幹施設として公共下水道の普及に取り組んでまいりました。

本年度末における処理区域内人口は70,088人（前年度比△115人 0.2%減）、普及率は99.7%（同率）となり、污水管の面整備は概成するまでに至りました。

一方で、昭和57年4月の供用開始から約40年を経過し、今後は管渠の老朽化・耐震化対策が重点施策となることから、ストックマネジメント計画に基づき幹線管渠や緊急輸送路、避難所経路等について調査・診断を実施し、管渠の老朽化状況の把握を進めています。

また、雨水浸水対策については、一級河川の改修等に合わせた雨水幹線の整備を着実に実施しています。

経営面では、水道事業と一体で料金徴収等の包括民間委託を実施し、年次的に業務内容の見直し・拡大を行っているところですが、令和5年4月より排水設備完了検査業務等を追加し、さらなる業務の効率化を図りました。

本年度の年間有収水量は、草津市からの区域外流入の影響を受け、前年度を上回っておりますが、市内における有収水量を比較すると、前年度を下回りました。

しかしながら、今後、ますますの改築更新費用、大規模災害に備えた耐震化費用が必要となることが見込まれることから、厳しい経営状況が続くものと考えられ、投資と財政の両面から健全経営に向けた取り組みを計画的に実施していきます。

《 業務状況 》

処理区域内水洗化人口は、69,366人で前年比117人減（0.2%減）、水洗化率は99.0%（同率）となりました。有収水量については8,954,593m³で前年比18,358m³増（0.2%増）、有収率は0.9ポイント増の90.0%となりました。

なお、有収水量1m³当たりの使用料単価は122.65円で、同汚水処理原価は125.74円となり、汚水処理原価が使用料単価を3.09円上回る状況となりました。

《 事業収支 》

収益的収支については、下水道事業収益1,644,249,157円に対し、下水道事業費用1,493,920,187円となり、150,328,970円の当年度純利益を計上しました。

一方、資本的収支については、収入額857,996,254円に対し、支出額は1,622,493,901円となり、資本的収入額が資本的支出額に不足する額764,497,647円については、繰越工事資金8,700,000円、減債積立金160,000,000円、過年度分損益勘定留保資金169,318,308円、当年度分損益勘定留保資金390,561,196円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額35,918,143円で補填しました。

《 建設改良事業 》

下水道（汚水）事業については、農業集落排水の浅柄野地区を公共下水道に編入するための接続工事と、市道路事業に合わせ綾、上鈎、坊袋地先において下水道管の布設工事を実施しました。また、ストックマネジメント計画に基づき小柿、出庭地先において30基のマンホール蓋の更新を実施しました。

下水道（雨水）事業については、大橋地先において国道8号野洲栗東バイパス事業に合わせ葉山川3-6号雨水幹線の整備工事を実施しました。また、出庭地先においては出庭1号雨水幹線の守山栗東雨水幹線への接続工事を実施しました。